

いました。戦後は朝日高校の授業や水泳部の練習に使われています。昭和52年の岡山インターハイでは水球の練習会場に指定されて改修が行われましたが、母校水泳部が休部となり、最も整備された状態で放置されました。浄化設備が無く、ここに水を入れると周囲の住宅の水圧が下がるため、水道局から注意をするように指導されました。



今も犬走りが残る



六校時代には飛び込み台も

⑨第4の校門

校庭の南、地藏川の上に残る「犬走り」。いったい誰が通ったのでしょうか。朝日高校には正門のほか南北に二つの

通用門があります。しかし半世紀ほど前から10数年の間、操山に近い南東にもう一つの出入口、いわば「第4の校門」があって校内マラソンの時などに利用されていました。

この門は岡山県が教育センターの為に昭和38年ごろ作ったもので、昭和50年代に、センターの第二棟建設に伴う新しい門の登場でその中にとりこまれました。当時の在校生の話ではその門の脇の植え込みを抜け、地藏川の

上の犬走りを通ると近道になる為、しばらくは部活の食料調達などに使っていたと言う事です。

⑩お墓がここに

朝日高校の南東辺りにはいくつかお墓があったと言われています。その場所の一つが観客用のスタンドの東、登り棒が6本立っているところの南。ただ見つかる墓石は上の竿の部分だけで、下の台座はありません。このため墓終い（はかじまい）して埋められたものが露出したのかも知れません。見つかったもののうち3個は、今から3年前に朝日高校の南にある圓常寺住職が供養をして境内に移したと言う事です。



不思議を作った用地買収

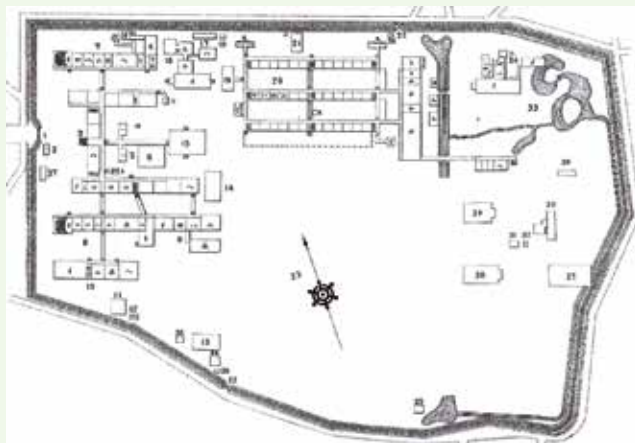
ここに掲げた不思議の多くが第六高等学校時代に起源を持っています。六高は明治33年に開校しましたが、その敷地は標高が低く、特に地藏川の西は海拔が5メートルも無かったと推定されます。造成にあたった岡山県と岡山市は高い石積みを築いて盛土を行い、校舎を建てました。地藏川の東側も同時に買収されて造成が行われています。正門に残る樋門石は、低い土地の校舎を守るためでした。

地藏川東側には、北半分は武家屋敷が、また南半分は圓常寺とこの寺が管理する墓地がありました。校舎の建設が終わると整備が始まり、武家屋敷跡には集会所などが作られますが庭は残ります。圓常寺は造成時に現在の場所に墓地と共に移転しましたが、無縁墓は埋められたようです。昭和に入って地藏川は南部分が暗渠になって今の姿になりました。

またプールは六高校友会が水泳部のために設置したものでした。ここに並べた不思議こそが、この地の歴史なのです。



造成中の六高用地



六高の建物配置